

老健いばらき

第53号

2018.8.1



霞ヶ浦と7色帆曳船（かすみがうら市）

写真提供：土浦市商工観光課

日本で2番目の大きさを誇る霞ヶ浦。最大400隻の収容能力があるヨットハーバーや、雰囲気たっぷりの土浦港プロムナードがあります。

野鳥の宝庫として知られ、飛来してくる鳥は150種類。夏には観光帆曳船が登場します。また、釣り場としても有名で太公望が全国から訪れます。

関連して、本年10月15日より5日間「人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—」をテーマに第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）が開催されます。



土浦市イメージキャラクター
「つちまる」

発行所／一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会
発行人／平成園 小柳賢時

編集人／かすみがうら
編集／田尻ヶ丘ヘルシーケア
鹿野苑
プラタナスの丘
シニア健康センターしおさい
つくばリハビリテーションセンター

大場 正 二
石川 達 也
熊坂 裕 吾
大曾根 卓
児島 強
市原 健 一

会長 挨拶

一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会

会長 小柳 賢時

介護老人保健施設の定義が在宅支援・在宅復帰を目指すその地域の拠点となる施設と明確化されてから1年が経過し、今回の介護報酬改定も定義に基づいた方向性が出されてきています。老健の類型もその他型となると相当厳しい経営となります。茨老健の全ての施設が基本型以上の類型となり、さらには上の類型を目指し努力しています。介護の質を向上させるためにも介護に関わる人材が必要で、人材不足について久しく議論されていますが有効な仕組みが見えてきていません。外国人労働者の受け入れも始まっていますが、年間3000名のEPA介護福祉士候補生や技能実習生、介護留学生においても日本の都合の良いようには来てくれません。政府において外国人労働者を増やす為、入国時の日本語レベルを緩やかに、また在留期間の延長などが議論されているようですが、直接介護に携わる介護の現場では日本語能力は必要です。医療機関が有料職業紹介事業者に支払った紹介料は年間600億円に昇り、人材獲得競争の激化に伴い紹介手数料は増大しています。介護機関においても同様に有料紹介事業者への存在度が高まり、紹介料も莫大となり経営にも負担となります。税金や保険料からの支払いとなります。今後はどの地域においても人

材不足は大きな問題となっていくことと思われれますので、各地域・施設で対応していかなければなりません。地域に密着していきましょ。

ご挨拶

茨城県保健福祉部
健康長寿福祉課

課長 杉山 順彦

このたび、平成30年度の組織改正に伴い健康長寿福祉課長に就任いたしました杉山順彦でございます。どうぞよろしくお願いたします。

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

我が国では、人口減少と少子高齢化が急速に進行し、本県におきましても、今年4月1日現在の高齢化率は28.6%と、3.5人に1人以上が高齢者という状況にあります。

県といたしましては、このような中、人生100年時代を見据え、高齢者1人ひとりが健康でいきいきと活躍できる社会を実現するため、平成30年度からの3年間を計画期間とした「第7期いばらき高齢者プラン21」を今年3月に策定したところです。この計画では、団塊の世代全てが75歳以上となる2025年を見据え、高齢者が住み慣れた地域で、可能な限り暮らし続けられる「地域包括ケアシステム」の構

築を施策の大きな柱に掲げております。

特に介護老人保健施設には、在宅支援・在宅復帰のための地域拠点として、またリハビリテーションを提供する機能維持・回復の役割を担う施設として、「地域包括ケアシステム」の構築に向けて大きな役割が期待されるところでです。

本年4月から健康長寿福祉課は、健康長寿日本一を目指して県民総ぐるみの健康づくりを推進するとともに、引き続き介護保険施設等の整備や介護保険事業所の指導・監査を受け持つこととなりました。

また、地域包括ケアシステム、認知症対策、高齢者権利擁護対策及び要介護認定等の介護保険制度については、地域ケア推進課が担当することとなりました。

県といたしましては、今回の組織改正により「茨城県地域包括ケアシステム」構築による誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現を目指してまいります。

結び、今後とも本県の高齢者保健福祉行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。貴協会の益々のご発展をご祈念いたします。挨拶といたします。

ご挨拶

一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会

理事 宮田 澄子

皆様におかれましては、医療・介護報酬の同時改訂のもと、やっと新しいシス

テムに対応されつつあると思えます。今回は、老人保健施設の評価を家庭復帰に関連した部分で区分し、報酬にかかわる事態となりました。これは、医療の地域ごとの再編成と同時に、地域における老健の再編成を見据えてのことと思えますが、なかなか大変なことです。病院から期限が関係して退院する方を老健が受けて、私達はその方の病状・介護必要度や在宅の介護力を知っているのです、期限を切った退所は迫れません。そんな現実があります。

高齢者人口が増え、同時に少子化社会であり、高齢化という意味では私たちの仕事の重要性は高まっていますが、少子化が関連した人手不足は深刻です。機械化で人員を削減できる工場とは違い、私達は生きている人間に関わってケアをしていますから、効率重視というわけにはなりません。高齢者ケアが魅力のある仕事であるには、利用者が生き生きとするようなケアを提供し、その利用者の姿を見てスタッフも仕事のやりがいを感じるような職場づくりが大事であると考えますが、スタッフが充足せず、ケアの質の低下を危惧するような現実があります。

さて、介護医療院という新しい施設がこの4月から介護保険施設に加わり、介護3施設が4施設になりました。筑西市ではまだみかけていないのでイメージがわかりませんが、療養型病床が介護保険側に入ってくる感じで、リハビリ(個別リハビリと生活リハビリ)機能はあまり重視されていないように見受けられます。その意味では、介護老人保健施設の持つ多様性である、家庭復帰・在宅支援・エンドオブライフケア(もしくは看取りケア)は地域で重要な役割を持っています。

老健の多職種・多機能を地域で生かせるように、頑張りたいと思いますので、どうか皆様よろしくお願いいたします。

**老健いばらき第53号
特別寄稿**

茨城県保健福祉部

部長 木庭 愛

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、平成30年度は介護報酬の改定があり、加えて、6年に一度の医療・介護の同時改定となりました。

また、県におきましては、昨年度末に「第7期いばらき高齢者プラン21」を策定したところでございます。

今回は、これらの概要を紹介させていただきます。

【平成30年度介護報酬改定】

今回の介護報酬改定では、団塊の世代が75歳となる2025年に向け、国民一人ひとりが状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、質が高く効率的な介護提供体制の整備を推進することとし、次の4つが大きな柱として示されました。

- ① 中重度の要介護者も含め、どこに住んでいても適切な医療・介護サービスを切れ目なく受けることができる体制を整備すること。
- ② 介護保険の理念や目的を踏まえ、安心・安全で、自立支援・重度化防止に

資する質の高い介護サービスを実現すること。

- ③ 多様な人材の確保と生産性の向上として、人材の有効活用・機能分化、ロボット技術等を用いた負担軽減、各種基準の緩和等を通じた効率化を推進すること。
- ④ 介護サービスの適正化・重点化を図ることにより、介護保険制度の安定性・持続可能性を確保すること。

また、介護老人保健施設（以下「老健」という。）に係る介護報酬については、介護保険法の改正により、老健にこれまで義務づけられていた「在宅復帰」に加え、「在宅支援」を担う施設であることが明示され、それを踏まえた改定がありました。

この改定の内容としまして、これまで、老健では在宅復帰率・ベッド回転率・重度者要件という3つの指標により、「従来型」「加算型（在宅復帰・在宅療養支援機能加算算定）」「在宅強化型」という3類型で分けられていたものが、10項目の評価指標から算出された点数により、「基本型」「加算型」「在宅強化型」「超強化型」「その他型」の5つに細分化されております。

また、自立支援への貢献が評価されることとなり、「排せつ支援加算」や「褥瘡マネジメント加算」等が新設されました。

【第7期いばらき高齢者プラン21】

一方、県では、人生100年時代を見据え、健康寿命日本一を目標にかかげ、健康寿命の延伸などを盛り込んだ第7期いばらき高齢者プラン21を策定しました。この計画では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現のため、次の5つを施策の柱として「茨

城型地域包括ケアシステム」を構築してまいります。

- ① 健康寿命日本一プロジェクトの推進やシルバーハビリ体操指導士の養成等により介護予防と健康づくりを推進し、人生100年時代への対応として、健康・生きがいづくりの推進と生活支援サービスの充実を図る。
- ② 認知症サポーターの養成等により、社会全体で認知症高齢者等を見守るとともに、認知症の早期発見・診断、認知症予防の推進を図り、認知症への対応と高齢者の尊厳の保持に努める。
- ③ 要介護状態になっても住み慣れた地域で生活を継続できるようニーズに対応した多様な介護サービス基盤を整備し、質の高い介護人材の養成・確保、介護職員の需給ギャップ解消に努め、利用者本位の介護サービスの充実を図る。
- ④ 茨城型地域包括ケアシステム推進センターの設置や医療提供施設等グループ化推進事業、ICTを活用した効率的な訪問看護への支援等により、在宅医療と介護連携を推進する。
- ⑤ 運転免許を自主返納した高齢者への支援施策の拡充や徘徊SOSネットワークの構築により、安全・安心なまちづくりを推進する。

また、この計画において、老健は地域に根差した包括的ケアサービスの施設としての大きな役割を担うなど、より一層の期待が寄せられております。

結びに、茨城県介護老人保健施設協会の益々のご発展をお祈りいたしますとともに、今後とも会員の皆様方には本県の高齢者保健福祉行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年度
一般社団法人茨城県介護老人保健施設協会
事業計画

3月	職種別専門委員会 定例理事会
2月	第26回研究発表会茨城県功労者・協会功 労者・永年勤続者表彰 老健いばらき第54号発行 リハビリ専門委員会 ポジショニング・ シーティングについて
1月	予定なし
12月	学術委員会 研究発表会担当者会議 県委託事業「茨老健会員施設職員対象 権利擁護推進員養成研修」
11月	災害時の栄養管理等 広報委員会「老健いばらき」担当者会議 定例理事会(9日)
10月	事務専門委員会 座談会(介護報酬改定 メイン) 栄養専門委員会 食中毒などの衛生管理 について
9月	看護・介護専門委員会 シナプロシ ーリハビリ専門委員会 疑義解釈の解説 地域と老健との関わり方 新設加算の取り組み方について(12日)
8月	支援相談員専門委員会 報酬改定に伴う 対策について(21日) 県委託事業「茨老健会員施設職員対象 権利擁護推進員養成研修」
7月	学術委員会 研究発表会担当者会議 老健いばらき第53号発行(1日)
6月	支援相談員専門委員会 グループワーク 在宅復帰について・加算について・各 種連携について(19日) 事務専門委員会 接遇研修(多職種対象 (11日)
5月	看護・介護専門委員会 意見交換会(27日) リハビリ専門委員会 同時改定を踏まえて 老健で働くリハ専門職に求められる 姿勢について(11日)
4月	広報委員会「老健いばらき」担当者会議 (8日) 栄養専門委員会 認知症の栄養ケアにつ いて(9日) 定時社員総会・定例理事会(25日)

職種別専門委員会
委員長挨拶

リハビリテーション
専門委員会

みがわ

笠原 鉄聡

引き続き、2期目のリハビリテーション専門委員会委員長を務めさせて頂くことになりました。老健みがわ理学療法士の笠原鉄聡です。あらためて私に課せられました使命と責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いです。

1期目の就任に際して、「地域包括ケアシステムの構築」への対応が求められる時代だからこそ、専門職としての知識やスキルだけではなく施設間同士の横のつながりも深められるよう、様々な取り組みを行っていくことを目標に掲げました。その環(ワ)にFacebookやTwitter、メール、グリストによる情報発信の体制を構築しました。また、昨年度からは県南での研修会も開催しております。

老健に努めるセラピストにとって有意義な研修を開催できるよう、委員会一丸となって取り組んで参ります。今後とも当委員会の運営にご理解とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。



看護・介護専門委員会

田尻ケ丘ヘルシーケア

塚田 尚樹

平成30年度、看護・介護専門委員会にて委員長を務めさせて頂くことになりました。介護老人保健施設田尻ケ丘ヘルシーケアの塚田尚樹です。日頃より、委員会の運営にご協力頂き感謝申し上げます。今年度は、年2回の研修会を予定しており、第1回研修会は、意見交換会を兼ねたグループワークを実施致しました。多数の方に参加して頂き、今回交した意見等を日頃の業務の参考にしていただければ幸いです。次回は、10月頃に、認知機能の低下を予防するプログラムであります。シナプソロジーの研修会を予定しております。

今後とも当委員会の運営にご協力のほどよろしくお願致します。

支援相談員専門委員会

かすみがつら

下河辺 敦子

今年度より、支援相談員専門委員会の委員長を務めさせて頂きます。老健かすみがつらの下河辺敦子です。皆様のご協力を頂きながら精いっぱい務めさせて頂きますので、どうぞ宜しくお願い致します。今回の介護報酬改定では、報酬体系の見直しや加算の新設等により、老健施設

としての機能を十分に発揮していく事がより強く求められた改定になっております。例年通り、前期にはグループワークを、後期には全老協の在宅支援推進部会から伊藤健博様をお迎えして加算等に関する研修会を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

事務専門委員会

鹿野 苑

吉川 美里

今年度より、事務専門委員会の委員長を務めさせて頂いたことになりました。鹿野苑の吉川美里です。不慣れな事もあり、ご迷惑をかけることがあると思いますが、精一杯務めていきたいと思っております。よろしくお願致します。

当委員会では今年度も年2回の研修会を予定しております。第1回目は毎年好評である全職種対象の接遇研修を開催予定です。事務部門だけではなく、どの職種も参加いただける内容となっておりますので、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

また第2回目は情報交換会を予定しております。平成30年度介護報酬改定を迎え、日頃の疑問や悩みなどを話し合い、業務に役立てていただければと思っております。

今後とも様々な取り組みを行っていきたくと思っておりますので、当委員会の運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。

栄養専門委員会

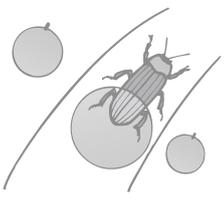
かすみがつら

山崎 真美子

今年度より、栄養専門委員会の委員長を務めさせて頂きます。かすみがつら管理栄養士の山崎真美子です。委員の皆様と協力しながら、精一杯努めていきたいと思っております。5月に開催した第1回研修会では、福島大学短期大学部講師の田村佳奈美先生に「認知症の栄養ケア」を、(株)明治の田所友美氏に「褥瘡の栄養管理」をご講演頂き、多数の方にご参加頂きました。

11月には、保健所職員を講師に迎え衛生管理の最新情報や災害時の栄養管理をテーマとした研修会を開催予定です。また、次年度には、講師に麻植有希子先生をお招きし、介護報酬を算定するにあたっての栄養ケアについて、ご講演して頂く予定であります。

今後とも、有意義な研修会を開催するにあたり、皆様のアンケートの声を基に企画・運営していきたくと考えておりますので、当委員会にご理解と協力の程宜しくお願い致します。

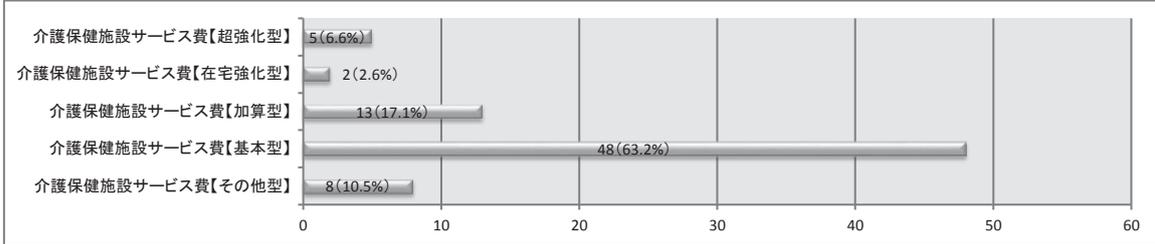


介護給付に関する各種加算に関するアンケート調査結果

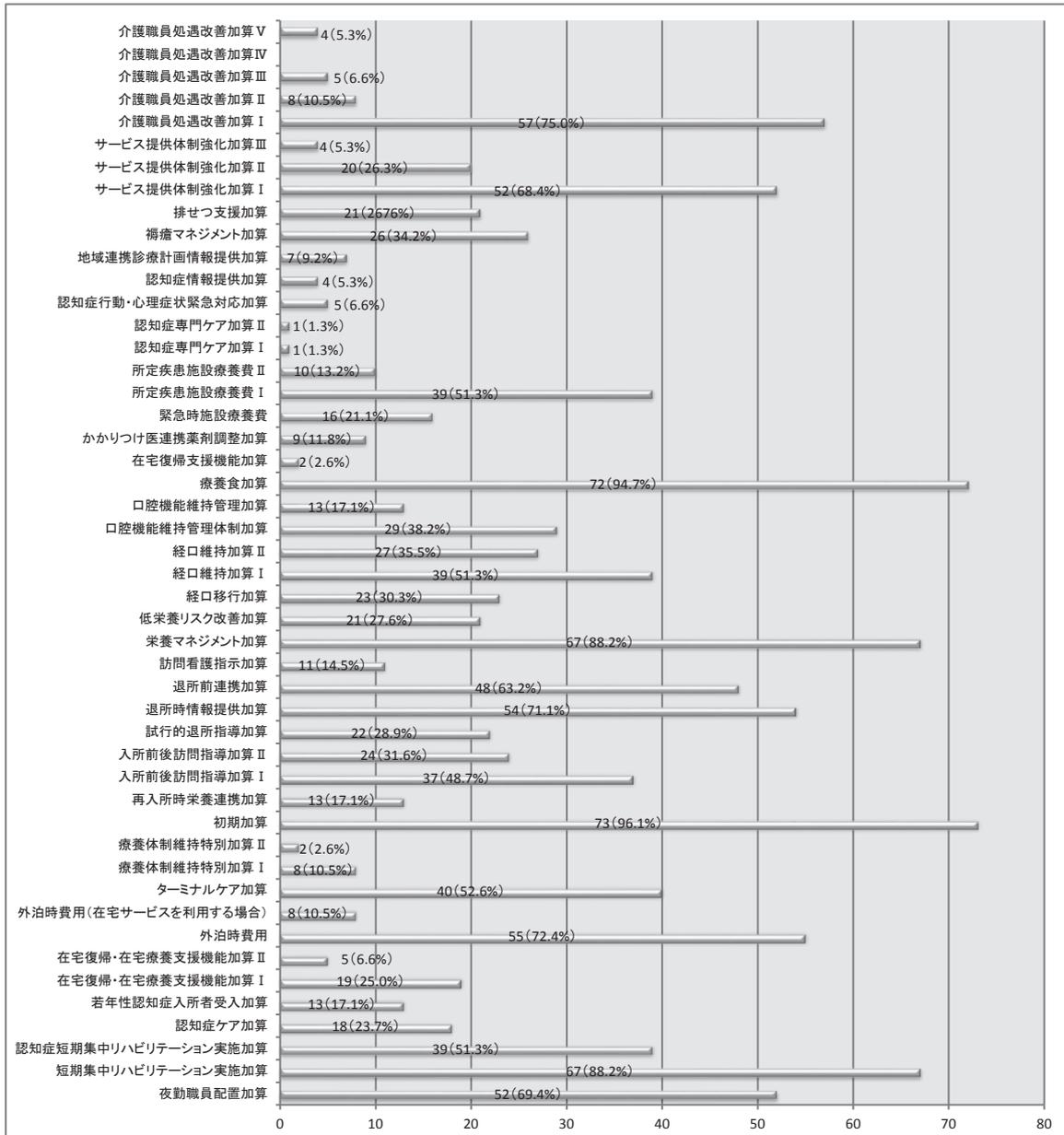
★調査対象 ⇒茨城県介護老人保健施設協会会員107施設（平成30年6月8日現在）
⇒平成30年6月8日現在にもとづいて調査

★回収総数 ⇒76施設（回収率71.7%）

介護保健施設サービス（基本部分）



介護保健施設サービス（加算）



注) 加算「有」と回答した施設について

- ・現に加算の実績がある。
- ・平成30年5月時点で加算請求していなくても、既に加算を算定する体制（人員、書式等）が整備されており、且つ6月に加算請求する予定がある。

注) 加算「無」と回答した施設について

- ・加算の届出をしていない。
- ・加算の届出をしていても、加算を請求する体制（人員、書式等）が整備されていない。
- ・加算を請求する体制（人員、書式等）が整備されているが、対象者がいない。

利用者様の笑顔

介護老人保健施設 いなしきの郷
ケアワーカー主任 兼平 恵子

いなしきの郷は、自然豊かな田園地帯の中、プライバシーが守られた居室でゆったり、のんびりとご自分のペースでケアライフを過ごして頂ける施設です。可能な限りご自宅に近い環境を整え、安心して介護を受けていただけます。

当施設の取り組みとして、デイケアの利用者様、入所の利用者様と共に園芸を行っています。

サツマイモやじゃがいもなど作っていますが、収穫した野菜は、レクリエーションで、おやつ作りなどをして、皆さんで食べます。野菜や花の成長が気になり、天気の良い日は、利用者様から散歩の誘いがあり、散歩に行く機会が増えました。散歩に行かれると「外の空気はきもちが良いな」とか、「この前よりも大きくなっているね」「収穫はいつ頃かな」など自然と笑顔も見られます。園芸をする目的として、生きがいづくり、運動不足解消になり、五感の刺激にもつながると考えます。また、職員は、畑経験などないので、利用者様に教えていただきながら行っています。

そういう場面でも、利用者様と職員のコミュニケーションが自然に取れているのは良いことだと思います。

今後も、利用者様の笑顔がたくさん見られる様な環境づくりをしていき、施設理念でもあります、「温もりと心が通ったサービスを提供する」を目指し、努力していきます。



入所者様の服薬について

介護老人保健施設 おおあらい
看護師長 東山 春江

当施設は大洗町にある、入所100床、通所リハビリ40名、開放感溢れる全室オーシャンビューの施設です。私は長年、急性期の病院に勤めており、訪問看護を経て、7年前から介護老人保健施設おおあらいに看護師長として携わっております。

現在は医師、薬剤師の指導のもと、入所者様の減薬に取り組んでおります。入所者様は入所時、平均でも6剤以上服薬されており、多い方だと10剤以上服薬されています。当施設では医師の回診が、医師である施設長はもちろん、協力病院の医師も来館され、週に3人の医師が回診を行っています。回診時は薬剤師、看護師が同行し、カルテと処方箋を用意し話し合います。薬剤師から、現



在の処方に疑問があれば意見が出され、看護師からは、日常観察の結果や検査の結果などを報告、医師はその場で処方を決めます。

もちろん、薬を減らすことで症状が悪化しては意味がないので、減薬後の観察が重要となります。5年前から減薬に取り組んでまいりましたが、状態が悪化する例はほとんど見られず、逆に状態が改善する例を少なからず経験してまいりました。重要なのは、チーム全員が入所者様の情報を共有していることだと思います。

これからも、スタッフ同士が助け合い、入所者様が明るく元気にリハビリに専念できる施設であるよう、邁進してまいります。

新 施 設 紹 介

施設長 森川 志子

「介護老人保健施設セントラル土浦」は、平成30年2月1日に開設した入所100名（一般棟70名、認知症専門棟30名、ショート含）、通所リハビリ20名の施設です。

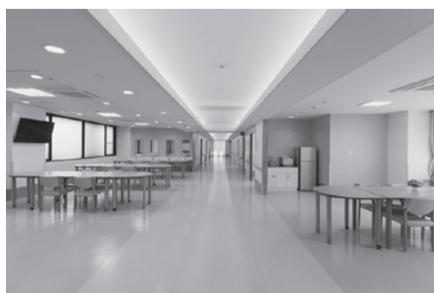
当法人「社会医療法人若竹会」は、牛久市にあるつくばセントラル病院を中心に病院併設型老健セントラルゆうあい、サテライト型老健セントラルふれあい129床を運営。両老健の強みを生かし、土浦市ふれあいネットワークプランの中で求められる老健施設の運営を目指し、土浦の地に開設致しました。

しかし、開設し早半年、土浦市の特性や周辺地域で求められるサービスについてを学ぶ日々ですが、牛久市の老健施設の特徴である医療依存度の高い方の積極的受け入れ等、「医療と介護の複合体」を土浦の医療機関をはじめ、少し離れた母体の病院の支えを受けながら、少しずつですが、「セントラル土浦」においてもその機能を発揮していると感じています。

平成30年の介護報酬改定で、老健の機能を評価する在宅復帰・在宅療養支援等指標が示され、在宅復帰やベッド回転率、要介護4、5の割合、胃瘻、吸引割合のみならず、リハビリ／支援相談員の配置や在宅への訪問割合、居宅サービス活用件数等様々な要素も加わりました。この指標については、地域、住環境を整備し、介護度の軽度な方だけでなく重度な方までも住み慣れた地域での生活が継続、永続できる土台作りを老健が担うことを評価する指標であると捉えています。私たちセントラル土浦は、老健の役割を果たすべく、「幅広い医療ケア、柔軟なリハビリ、在宅生活の継続サポート」を強化させ、厚いサポート力を兼ね備えた老健施設となり、土浦市、周辺の皆様に、安心してご利用頂ける施設となるよう頑張っております。今後とも何卒、宜しくお願い致します。



介護老人保健施設 セントラル土浦外観



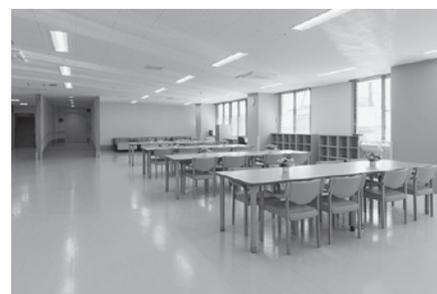
食堂／レクリエーションルーム



療養室



リハビリテーションルーム



デイケアルーム

社会医療法人若竹会
介護老人保健施設セントラル土浦

茨城県土浦市真鍋新町12-10
TEL：029-893-6100
FAX：029-893-6101

ゴーエン美浦 (稲敷郡)



●トレーニングプールの見学

5月下旬、施設近くの美浦トレーニングセンターへ、通り八の利用者様と競走馬のスイミングプールでのトレーニングを見学に行きました。

トレーニングセンターOBの方もそうでない方も、間近で見る馬に『かわいいね』『大きいね』と感激し、喜んで頂いている様子が印象的でした。天気にも恵まれた楽しい外出レクリエーションとなりました。

なでしこ (つくば市)



●折り鶴シャンデリア

当施設の利用者様と職員で一羽一羽、大事に折った鶴を展示スペースに飾りました。

ぎっしり飾ると千羽鶴のようになってしまうので、配色を考えながらシャンデリアのようにしました。

華やかな飾りに皆さん喜ばれていました。

みんな

マカベシルバートピア (桜川市)



●虹色いきいき

当施設の入所者様による共同作品です。

主に女性利用者様を中心として、季節感のある作品作りに取り組まれています。

利用者様の共通の目標として「歳をとるごとに元気になるう」を掲げ、毎回利用者様同士で楽しく会話をされながら、賑やかに作業活動に励んでおられます。

みがわ (水戸市)

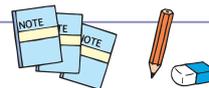


●朝顔の壁画

障子紙を丸く切る人・色を調合する人・染色する人・飾る人、それぞれに作業を分担し、約3週間かけて完成させました。染色では赤や青の絵の具を混ぜて様々な色を作り出しました。簾に飾ると濃淡がより鮮やかに映え、一足早く夏が訪れた施設館内です。

のた場

— 編集後記 —



表紙の「つちまる」は平成22年の土浦市制施行70周年を記念して誕生しました。

日本一の生産量を誇る土浦市の特産品「レンコン」をモチーフにしています。

また、7色の帆船は特別な年に運航されるもので、本年は世界湖沼会議に合わせた運航となります。本件での世界湖沼会議の開催は23年前の第6回開催依頼2度目となり、つくば国際会議場を中心会場として、様々な研究発表や意見交換が行われます。この会議をきっかけとして、茨城県が世界の注目を浴びるとともに、環境問題の解決へと前進することを期待したいものです。

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会

水戸事務局
水戸市千波町1918 (月・金 9:00~13:00)
TEL. 029-291-5376 FAX. 029-291-6057

平成園
古河市旭町1-17-39 (左記以外時間帯対応)
TEL. 0280-31-5998 FAX. 0280-31-7767